

第1部 自分や家族を守る

特集 防災力を高めよう

大丈夫ですか？災害時の備え

自然災害の脅威

市内には、主要な河川として、多良岳を水源とする郡川をはじめ、大上戸川、内田川、鈴田川などがあります。いずれも水源から河口までが短いため、集中豪雨や連続降雨などの時には、予想以上の早さで氾濫することがあります。そのような水災害に加え、がけ崩れ、地すべり、土石流といった土砂災害の危険もあります。

また、台風が長崎県下を通過する回数は、全国で宮崎県・鹿児島県に次いで多く、台風被害に対する警戒も必要です。記憶に新しいところでは、平成18年9月の台風13号は市内にも大きな被害を及ぼしました。

さらに地震が少ないといわれてきた九州でも、福岡県西方沖でマグニチュード7の大地震が発生したように、地震災害も想定する必要があります。

突如として襲ってくるこれらの自然災害から人命や財産を守るためには、日ごろからの備えが重要です。



平成18年9月の台風13号により壁が損壊した放虎原小学校の体育館

県内における主な災害

昭和23年9月	佐世保豪雨	死者・行方不明者108人
昭和28年6月	西日本水害	死者25人
昭和32年7月	諫早水害	死者・行方不明者782人
昭和42年7月	佐世保豪雨	死者・行方不明者50人
昭和57年7月	長崎水害	死者・行方不明者299人
平成2年6月	雲仙普賢岳噴火災害	死者・行方不明者44人
平成3年9月	台風19号	死者5人 被害額約797億円
平成18年9月	台風13号	被害額約190億円

近年、地球温暖化の影響といわれる異常気象や集中豪雨・台風などの自然災害が多発しています。自然災害は突如として私たちに襲いかかります。梅雨・台風シーズンを前に、防災について考え、緊急時に備えましょう。

■問い合わせ 安全対策課（内線217）

非常持出品を準備しよう

非常持出品には、災害発生時にすぐに持ち出す1次持出品と、その後、救援物資が届くまでの数日間（最低でも3日間）生活するための2次持出品があります。非常持出品の準備は防災対策の基本です。家族構成に合わせて必要最小限のものをまとめ、リュックサックなどに入れてすぐ持ち出せるように保管しておくことが大事です。

【1次持出品の例】

- 食料（ビスケット、乾パン、缶詰など）
- 飲料水（ペットボトル入りが便利）
- 貴重品（現金、預貯金通帳、印かん、免許証など）
- 生活用品（衣類、軍手、缶切り、ライター、ナイフなど）
- 救急医薬品（きず薬、ばんそうこう、常備薬など）
- 懐中電灯（できれば一人にひとつずつ）
- 携帯ラジオ（小型で軽いもの）
- 予備電池
- ヘルメットや防災頭巾

「自分たちのまちは自分たちで守る」

自主防災組織

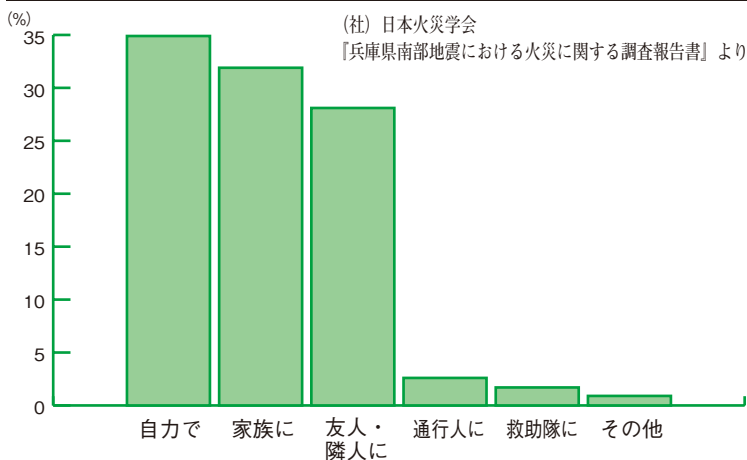


災害が発生したとき、私たちの住む地域はどうなるのでしょうか。建物の崩壊や火災の発生、水道や消火設備・道路の崩壊、多数の負傷者……。各地で多発する被害に対して公的防災機関が十分に対処できない場合も考えておく必要があります。

いざというとき、被害を最小限に食い止めるには、地域住民による組織的な防災活動が必要です。住民同士が協力して自発的につくる「自主防災組織」は、地域防災活動の拠点になります。阪神・淡路大震災のときには、地域住民が自発的に救出・救助活動をして被害の拡大を防ぎ、その後の復興にも大きな力を発揮しました。

「自分たちの家族やまちは自分たちで守る」という意識で積極的に自主防災組織に参加し、地域防災力を高めることが大切です。

阪神・淡路大震災における生き埋めや閉じこめられた際の救助方法



松並1丁目自主防災隊 隊長 中村慶治さん



松並1丁目町内会の加入世帯は250世帯。古くから住んでいる人と新しく移り住んだ人が半々という西大村地区の閑静な住宅街である。その町内会の自主防災組織が「松並1丁目自主防災隊」だ。平成19年にはその活動に対して市から感謝状が贈られた。隊長の中村さんは町内会長を11年間務めており、自主防災組織設立の立役者でもある。

中村さんが自主防災組織の必要性を感じたのは平成7年の阪神・淡路大震災だった。テレビで映し出される被災地の惨状を見て、「今の時代はどのような災害がいつ起こるかわからない、万が一に備えて町内でも防災訓練を行っておく必要がある」と痛感したそうだ。そして町内の意見も聞きながら、平成11年11月に松並1丁目自主防災隊を設立した。

自主防災隊ではこれまでに3回、町内会総出の自主防災訓練を実施している。平成18年7月30日に行った訓練には、子どもから高齢者まで約280人が参加した。班ごとに決められた集合場所に集まり、人員を確認したうえで高齢者は担架で搬送、他の住民はロープを握って班長が避難場所である西大村中学校まで誘導した。そのあと消

あなたの地域に自主防災組織はありますか？

市内の自主防災組織の結成状況 5月1日現在（結成順）

寿古町内会自主防災会	北松本自主防災会
前舟津町内会自主防災クラブ	南松本自主防災会
坂口町内会自主防災部	赤佐古自主防災組織
上駅通り商店会自主防災会	小佐古自主防災組織
下駅通り商店会自主防災会	荒瀬町自主防災組織
植松2丁目自主防災会	福重町自主防災組織
沖田町内会自主防災会	武留路町内会自主防災組織
松並2丁目自主防災組織	今山町自主防災組織
乾馬場町内会自主防災部	さつき台町内会自主防災組織
中岳町内自主防災会	下諏訪町内会自主防災組織
田下町自主防災会	小川内町内会自主防災組織
宮代町自主防災会	内倉町内会自主防災組織
黒木町自主防災会	陰平上町内会自主防災組織
原町自主防災会	陰平下町内会自主防災組織
久良原自主防災会	寺本町内会自主防災組織
南川内自主防災会	梶の尾団地町内会自主防災組織
北川内町内会自主防災会	大川田町内会自主防災組織
須田ノ木町内会自主防災会	平町町内会自主防災組織
松並1丁目自主防災隊	武部町内会自主防災会
桜馬場第二町内会自主防災会	日泊町内会自主防災会
桜馬場第一町内会自主防災会	新城町内会自主防災組織
水計町自主防災会	協和町町内会自主防災組織
雇用促進住宅寿古宿舍自主防災会	今村町内会自主防災組織

大村市の自主防災組織数は、5月1日現在で46組織。組織率は25・1%にとどまり、全国の66・7%（平成18年4月1日現在）、県全体の37・8%（平成19年3月31日現在）と比べても低い状況です。

市では町内会に呼びかけ、自主防災組織の結成をお願いしています。日ごろから声を掛け合う身近な人たちの交流や助け合いの精神が自主防災組織となつて、過去にも大災害から多くの尊い命を救つてます。

突然襲いかかる自然災害。被害を「0」にすることはできませんが、最小限に留めることは可能です。そのためにも自分や地域の防災力を高め、災害に対する備えを整えることが重要です。

- 三浦地区 3組織
- 鈴田地区 5組織
- 大村地区 6組織
- 西大村地区 10組織
- 萱瀬地区 9組織
- 竹松地区 1組織
- 福重地区 4組織
- 松原地区 6組織
- その他 2組織

大村市の自主防災組織数 46組織
 大村市の自主防災組織率 25.1% （結成世帯数 / 大村市の全世帯数）
 ※いずれも5月1日現在

Interview

わが地域の自主防災組織



話された。後の抱負をたいと今動していきら一緒に活か聞きながらの声をよさない。皆さ

防署員の指導で消火訓練や地震体験車の試乗、煙霧体験なども行った。「実際に体験することが重要。体験したことがいざという時、生きてくる」と中村さんは話す。町内会でこれだけ大掛かりに行っているところは他になく、消防関係者も驚いていたそう。参加した住民の皆さんからも「勉強になった」「参加してよかった」という声を多く聞いたそうである。

松並1丁目町内会では、自主防災組織のほかに女性防火クラブも設立しており、年に2、3回、消防署から講師を招いて消火訓練や救急救命法などの訓練などを行っている。このような取り組みを続けていることで、確実に町内の防災意識は高まっていると中村さんは言う。また、「防災訓練の他に町内全員が集まる機会はめつたにない。普段会わない人同士が同じ体験を共有し話をすることでコミュニケーションが生まれ、新しい絆（きずな）が生まれる。それが大切なんです」と話す。

次回の自主防災訓練は、平成21年を予定している。中村さんは「何事も町内の皆さんとの協力がないとできない。皆さんの声をよく聞きながら一緒に活動していきたい」と今後の抱負を話された。